



事業名

日本六古窯サミット2022 in 信楽

「旅する、千年、六古窯」～これからの千年の持続可能性～

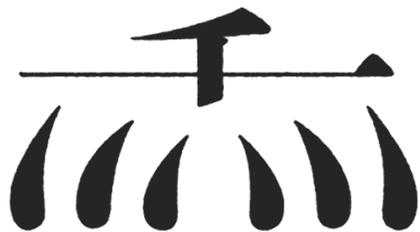


取組の概要

日本六古窯サミット2022 in 信楽は、令和4年10月7日(金)に甲賀市で開催されたイベントです。日本遺産「日本六古窯」を構成する6つの産地が開催地である滋賀県甲賀市に集い、様々な企画が展開されました。

全体テーマは「六古窯博覧会(ろっこようはく)」。六古窯関係者の交流を深めるという従来の目的に、2025年に万博が関西で開催されることを見据えて新たな関係性を広げるという目的を加え、次の千年に向けた新たな出会いを生む、開かれた催しとなりました。また、6つの産地が今後進むべき方向をサミット宣言として発出されました。

日本六古窯サミット2022 in 信楽



旅する、千年、六古窯

火と人、土と人、水と人が出会った風景

日本六古窯は、古来の陶磁器窯のうち、中世から現在まで生産が続く、代表的な6つの窯（越前・瀬戸・常滑・信楽・丹波・備前）の総称です。1948年頃、古陶磁研究家・小山富士夫氏によって命名され、2017年春、日本遺産に認定されました。

それを機に*6市町では、六古窯日本遺産活用協議会を発足させ、日本六古窯としての活動を深化させています。

本サミットは、昭和63年に丹波篠山市（当時・今田町）で第1回が開催されてから、今回で15回目。滋賀県信楽窯業技術試験場が移転オープンすることを記念し、甲賀市にて開催されました。サミットに併せて、マーケットや企画展なども併催され、市民や外部にも開かれたイベントとなりました。

*6市町…越前焼：福井県越前町、瀬戸焼：愛知県瀬戸市、常滑焼：愛知県常滑市、信楽焼：滋賀県甲賀市、丹波焼：兵庫県丹波篠山市、備前焼：岡山県備前市

仲間と結束して 苦難を乗り越える



「六古窯は仲間。6つの産地は共通であり、相違もある。一緒に継承する義務がある。未来への持続的取組としたい。」甲賀市長は開会挨拶でこのように述べられました。

本サミットは2020年に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響による2回の延期を経て、3年越しの開催であり、この間、それぞれの産地においても未曾有の苦難を経験した後の初めてのサミット開催となりました。

まさに、次の千年に向けて、結束して進む第一歩が本サミットにより踏み出されました。式典の最後には、6市町長によって、2025年大阪関西万博をマイルストーンとするサミット宣言が行われ、採択されました。

2025年と その先の千年へ



次回は、大阪・関西万博の開催年度である2025年に備前市での開催を予定。万博会場からの誘客や、中国地方における他のイベントとの連携も見据えています。

サミット中の基調講演において、元日本遺産プロデューサーの小山龍介氏は、「国内的には離れた場所にある六古窯もまた、海外から見ればひとつの産地であり、海外の〈観客〉を意識することによって地域の協力関係を生み出し、相互協力を進めることに六古窯の未来がある。」と言及されていました。

それぞれが文化と歴史を持つ6つのやきもの産地。次は、日本を超えて世界へ、次の千年へ、日本六古窯が万博から飛躍します。



問い合わせ先：甲賀市産業経済部商工労政課

URL：六古窯日本遺産活用協議会HP：<https://sixancientkilns.jp>

甲賀市HP：<https://www.city.koka.lg.jp/2012.htm>

Mail：koka10351000@city.koka.lg.jp